

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立伊岐佐小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>○県学習状況調査の結果は、全体で見ると県市の平均を上回り概ね良かった。児童の学力の2極化、固定化という課題がまだ残っている。研究の指標のひとつとして、指導の質的改善を図っていく。</p> <p>○道徳の授業について「自分のこととして」「価値を多角的・多面的に」考えるような指導法について職員研修等でさらに共通理解を図り、児童の道徳性を養う指導法へと改善を進めていく。</p> <p>○業務改善については、年間を見通した職員会議の提案を進め、時間短縮だけでなく内容の充実を図っていく。</p>
2 学校教育目標	確かな学力、豊かな心、健やかな体 ～知・徳・体のバランスのとれた力をはぐくむ～
3 本年度の重点目標	<p>○学習指導要領の理解と理念に基づいた指導法改善と共に、本校児童の学力の2極化、固定化を解消する指導の質的改善</p> <p>○多様性を尊重し、いじめを許さない学校風土づくり</p> <p>○地域連携行事・地域への貢献活動への積極的参画・参加</p> <p>○教育の質の向上を担保しながらの業務改善</p>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・単元で身につけたい資質能力と単元計画を児童と共有して、授業に臨む。 ・年に2回以上の授業公開を行い、授業検討会で学び合う。 ・「めあての自分化」(個別最適化)を取り入れた指導法改善を行う。	A	・単元で身につけたい資質能力を学習課題として提示し、授業を行っている。 ・授業公開、検討会を一人2回の授業公開・検討会を実施した。 ・各教科の特性に合わせた「めあての自分化」について、各グループで検討しているところである。	A	・単元で身につけたい資質能力を提示し、「めあての自分化」を取り入れた授業の実践を重ねてきた。 ・学習活動を通して身につけた力を日常に活かすことができるまで高める必要がある。継続した指導、個に応じた指導を図っていく。	A	・学力向上に向けてよく取り組んでもらっている。 ・昨年度より「学力の2極化への対応を」ということだったが、今年度の調査結果からも二極化の傾向が見られる。個に応じた指導を継続して取組んで欲しい。 ・読書活動や新聞の活用も推進したらどうだろうか。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業において、①自分ごととして②多面的・多角的なふりかえりしている児童70%(振り返り分析)	・児童が考えをさまざまな形で出し合い、つなげて、考えを深めることができるような授業の形態をさらに工夫する。 ・道徳の校内研修で、道徳の価値内容を自分ごととして考え、多面的・多角的に考える指導法を深める。	B	・資料の提示の仕方や、発問の工夫など児童が考えを深めることができるような授業を工夫している。 ・長期休業中に道徳の校内研修を実施し、価値内容を多面的・多角的に考えることのできる指導方法について研修したことを授業実践に活かした。次年度もお互いの考えを深められるような発問と場の設定の工夫を図っていく。	A	・資料の提示や発問の仕方について改善し、考え議論する道徳の授業の実践を行った。 ・長期休業中に道徳の校内研修を実施した。価値内容を多面的・多角的に考えることのできる指導方法について研修したことを授業実践に活かした。次年度もお互いの考えを深められるような発問と場の設定の工夫を図っていく。	A	・特別の教科道徳を要として各教科等と連携を図りながら取り組んでいることがわかった。 ・さらに、道徳教育のよりよい在り方や日常生活に活かせる授業づくりを考えてほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止に向け、開発的・組織的対応ができていると回答した教職員80%以上	・未然の対応を本校のスタンダードとし、毎月「こころのアンケート」、学期1回の「いじめアンケート」を確実に実施し、全職員が確認(児童理解)をする。 ・事案発生時は、ケース会議で情報を共有し、体制を作って即時対応をする。 ・児童に考えさせる指導に努め、児童の実態(思考や経験)に合った指導を行う。	A	・「こころのアンケート」やQ-U研修会・児童理解研で、子どもの困り感や集団の分析を行い、具体的な対応策を学年グループや全職員で考えた。 ・なかよし教室やともだち集会、道徳科、総合的な学習の時間で、差別やいじめを考える授業を行った。	A	・児童理解研修による教職員での情報共有、SCとの連携を行い、児童が安心して学校生活が送れるよう取り組んだ。 ・学期に1回のいじめアンケート、年2回のQ-Uにより、いじめの早期発見に努めた。いじめ事案の発生時には、ケース会議を行い、組織で対応して早期解決に努めた。 ・次年度においても法に基づいたいじめについて研修を行い、認定していく必要がある。	A	・定期的なアンケートやQU調査等での児童の実態把握をはじめ、未然防止、早期発見に努めている状況がわかった。また、児童や保護者への相談体制も取れていてありがたい。 ・今は「いじめ」の認識が昔と違うので、先生方の大変さが分かるが、引き続き子ども達に寄り添ってほしい。
●心の教育	◎地域のために役に立ちたいと思う市民性を育む教育活動	◎「出番、役割、承認」のある教育活動を計画的に実施していると回答した教職員80%以上	・学校行事等への招待活動を積極的にを行い、児童のやる気を促す。 ・目的意識をもって地域の行事に参加したり、長寿の里訪問や銀杏の販売等、地域と結びついた取り組みを積極的に実施する。 ・テレビや新聞、学校HPなどで学校の取組について広報する。	A	・コロナ下で地域の行事が中止される中で、コロナ感染症防止対策を図りながら地域を活用した学習や地域へ向けての学習を積極的に進めた。 ・学校行事や外部指導者を活用した学習の際には、プレスリリースをした。また、学校HPに掲載し、広報を積極的にに行った。	A	・地域行事への参加、ボランティアを呼びかけた教職員のポイントが85.7ポイント、郷土愛を育む指導に努めたと回答した職員が95.2ポイントといずれも目標値以上を達成している。 ・コロナ下で多くの地域行事が中止になったが、相知町駅伝や太鼓民舞フェスタ等の地域関連行事に、児童は積極的に参加しようとしていた。 ・感染防止に努めながらゲストティーチャーを活用した学習を積極的にに行った。また、プレスリリースをして広報に努めた。学校HPの掲載も積極的にに行った。	A	・各学年に応じた地域学習や交流が伝統的に行われていて素晴らしいと思っている。 ・子どもの時の体験は、大人になっても心に残っている。是非続けてほしい。
	◎「望ましい生活習慣の形成」に向けて、自律的に生活しようとすることの良さや意識を育む教育活動	○「生活習慣100点運動」で自分のためあてを達成できたと回答した児童80%以上	・学期に1回(6月11月2月)の取り組みをメールや学校便り・学級通信等で、積極的に発信し、保護者の意識向上を図ることで児童の行動化につなげる。 ・SNS等の使用についてアンケート調査を実施するとともに、講演会を実施することで生活の見直しをさせる。 ・むし歯予防と共に感染症予防、熱中症予防など、発達段階に応じた保健指導を実施し児童の成長を促す。	B	・学校・学級通信等で事前に情報を発信している。児童・保護者共に生活習慣100点運動の活動状況を記述するよう求め、行動化の更なる向上を図っている。 ・アンケートを実施し、保護者を交えた講演会を実施し、生活の見直しをさせた。 ・むし歯予防の授業を実施した。感染症予防、熱中症予防を児童集会で保健指導を実施した。	B	・生活習慣100点運動で自分のためあてを達成できた児童は70%であった。しかし、未達成の児童も自分の課題が明確になり、これからの生活に生かそうとする意識の向上が見られた。 ・講演会を実施し、生活を見直したが、まだまだ改善の余地がある。 ・感染症予防に力を入れ、検温、手洗い、換気など児童が自ら、対策をとれるよう支援した。 ・SNSの活用や家庭での生活など育友会と連携して、家庭の啓発を行っている。	A	・生活習慣の定着は大事だと思う。家庭と連携して啓発してもらいたい。 ・スマホでのゲームや動画視聴の時間制限等のルール作りについては、PTAと学校の両方で本気で考えていかなければならないことだと思う。 ・講演会等を開き、保護者の意識を変えていくことも大事だと考える。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・ICTを活用した資料やファイル等の活用と整理整頓の徹底を図る。 ・事前の部会開催と2日前の資料配布で職員会議60分以内の徹底と内容の充実。	B	・ファイルを準備し、各教科主任で資料等を綴るようになった。次年度に引き継ぐように資料の整理やサーバー内の整理に取り組んでいる。 ・職員会議の資料が締め切りまでに出ていないことがあるので、遅れる部会長には、事前に声掛けをしている。	A	・各教科担当者、担任等でファイルや資料を保存し、次年度に引き継ぐ準備ができている。サーバー内についても、整理を進めた。 ・職員会議資料について、職員の見解を取り入れ、電子ファイルで行った。実施後の反省を生かして改善していく必要がある。職員会議についても軽重をつけて60分以内の実施を目指している。 ・サーバー内のファイルの整理、ファイル保存のルールの徹底を図り、人事異動があっても仕事の引き継ぎができるよう改善を行っていく必要がある。	A	・業務効率化に向けて、少しずつ意識しながら取り組んでいることがわかった。 ・職員の見解があっても、誰でもすぐにわかるようなデータ、ファイル等の整理整頓が望まれる。

●...果共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育	
5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・学力の2極化への対応</p> <p>・法に基づいたいじめの理解と未然防止の取り組み</p> <p>・体づくり・生活習慣等について育友会と連携した取り組み</p> <p>・人事異動があっても仕事の引き継ぎができる業務改善</p>